ワークシート（１時間目）

（　　年　　組　　番　氏名　　　　　　　　　　　）

**１　社会保障について考えてみよう**

【ワーク１】これからの人生で起こるかもしれない困難な出来事にはどのようなものがあるか、書いてみよう。

|  |
| --- |
| （回答例）※（ ）内は利用可能な社会保障制度  病気・ケガ（←医療保険、労災保険）、長生きによる収入減少（←年金保険）、自分が介護を必要とする状態になること（←介護保険）、失業（←雇用保険）、貧困（←生活保護、生活困窮者自立支援制度） |

【ワーク２】予期せぬ困難を支えるのが社会保障制度です。社会保障制度のうち、社会保険には医療・年金・介護保険などがあります。もし、社会保険がなかったら私たちの生活はどうなるか、考えてみよう。

|  |
| --- |
| （回答例）  ・医療や介護にかかる費用を全額自己負担しなければならないため、重い病気や要介護度になったときに必要な医療・介護が受けられなくなる。  ・何歳まで生きるか分からないなかで、働きながら高齢期の生活費を全額確実に用意しておかなければならなくなる。また、親が仕事を引退した場合には、親に多額の仕送りをしなければならなくなる。 |

→今日は公的医療保険について考えていきます。

**２　公的医療保険について考えてみよう**

（１）公的医療保険の仕組み

【ワーク３】窓口で保険証を提示した場合、あなたが支払う金額はいくらになるか、計算してみよう。

ケース１　突然高熱が出たあなた。近くの病院の内科でインフルエンザB型と診断され、薬も含めて治療代は全部で１万円になりました。

|  |
| --- |
| （回答例）  ・３割負担だから、3,000円。国民皆保険制度で公的医療保険に入っているから、窓口での自己負担は３割になる。 |

ケース２　マラソン中に転倒し大腿骨骨折の大ケガ。手術をして１ヶ月入院。治療代は全部で150万円になりました。

|  |
| --- |
| （回答例）  ・３割負担なので、原則として45万円を支払わなければならないが、高額な負担となった場合、負担額を頭打ちとし、残りを保険で支払う制度（高額療養費制度）がある。これを利用した場合、通常１ヶ月８万円程度で済む。 |

（２）医療機関を受診したときの医療費

【ワーク４】医療機関でもらう領収証や診療明細書から分かることを探ってみよう。

①　副教材p.11～12を見て、医療機関にかかって窓口でお金を払った時に受け取る領収証や診療明細書から何が分かるか、確認してみよう。

|  |
| --- |
| （回答例）  ・　診療内容と費用。 |

②　副教材p.11～12に載っている領収証や診療明細書から実際の医療費がいくらかかっているか、確認してみよう。

|  |
| --- |
| （回答例）  ・実際の医療費は169万1350円。領収証や診療明細書では、１点10円になっている。 |

（３）国民皆保険制度の必要性①

【ワーク５】国民皆保険制度の必要性について考えてみよう。

○「公的医療保険」がなく、「民間医療保険」のみ存在する場合にどうなるか、考えてみよう。

|  |
| --- |
| （回答例）  ・高齢者など病気にかかるリスクの高い人は、高い保険料を支払うことになる。  ・収入が少ない人は、必要な保険に加入できない。  ・持病や既往歴がある人は加入できないことがある。  ・期限が定められている保険もあるため、その後の保障がされないこともある。 |

○　グループに分かれて、考えたことを発表しよう。

発表を通じて感じたことや分かったことについて、メモしよう。

|  |
| --- |
| （回答例）  ・保険料が支払える人は民間医療保険で保障されるが、保険料を支払えないと何も保障されないことに問題があると感じた。  ・公的医療保険は年齢・性別に関係なく賃金等の負担能力などに応じた保険料の支払いになっているため、負担能力が低い人も安心できる制度であると感じた。  ・公的医療保険の重要性が分かったため、きちんと保険料を支払わなければならないことが分かった。 |

【本日の振り返り】今日の授業で学んだことを書いてみよう。

|  |
| --- |
|  |

ワークシート（２時間目）

（　　年　　組　　番　氏名　　　　　　　　　　　）

**２　公的医療保険について考えてみよう**

（３）国民皆保険制度の必要性②

【ワーク６】国民皆保険制度は必要か、それはなぜか考えてみよう。

○副教材p.18の年齢階級別１人当たり医療費のグラフから読み取れることを答えよう。

|  |
| --- |
| （回答例）  ・高齢になるにつれて医療費が増大していく傾向にある。  ・幼い頃もけっこう医療費はかかっている。 |

○国民皆保険制度は必要か、それはなぜか、考えてみよう。

|  |
| --- |
| （回答例）  ・必要。国民皆保険制度であれば、収入や個人が抱えるリスクによらず、保険料をきちんと負担していれば、いつでも、誰でも、医療が受けられるから。 |

（４）日本の公的医療保険の課題

【ワーク７】副教材p.19「医療費の動向」から分かることとその原因を、考えてみよう。

|  |
| --- |
| （回答例）  ・医療費が年々増加している。高齢になるにつれ、一人当たりの医療費は増大する傾向にあることから、この変化は少子高齢化の影響によるものと考えられる。 |

（５）日本の公的医療保険の課題への対応を考える（高額な医療への対応）

【ワーク８】高額な医療を公的な医療保険の対象とすることについて、考えてみよう。

○　日本の公的医療保険では、保険の対象となる医薬品とその「薬価」が定められています。現在、画期的な新薬として、数千万円するような新薬も登場していますが、そういった高額な新薬を保険適用することについて、どう考えますか。

|  |
| --- |
| （回答例）  ・誰もが受けたい医療を受けられるよう、公的な医療保険制度はできる限り多くの治療法を給付対象とすべきなので、賛成だが、効果が同じくらいでより安い治療法があるのであれば、そちらを使うようにすべき。 |

○　グループに分かれて、考えたことを発表しよう。

発表を通じて感じたことや分かったことについて、メモしよう。

|  |
| --- |
| （回答例）  ・保険適用すべきという人と、すべきでないという人で意見が分かれた。命に関わる問題であり、誰もが公的な医療保険のなかで受けたい医療を受けられるべきという意見もあったが、その結果として高額な医療を受ける人が増えてしまえば、医療保険財政が破綻してしまい、結局全員が公的医療保険を使えなくなってしまう、という議論になった。  ・風邪が1000万円で治る薬は保険適用する必要はないが、命に関わるような難病が3000万円で治る薬であれば保険適用してもいいのではないか、という意見が興味深かったが、その細かい線引きは難しいと思った。 |

（６）日本の公的医療保険の課題への対応を考える（医療費負担軽減へのインセンティブ付け）

【ワーク９】医療費負担軽減にインセンティブを持たせることについて、考えてみよう。

○　医療費負担軽減にインセンティブを持たせるため、健康な人の保険料を軽減する仕組みを導入したらどうなるか、考えてみよう。

|  |
| --- |
| （回答例）  ・病気にかかったときに保険料が上がるため、安心して生活を送ることができない。  ・健康保険加入者の保険料収入が減るため、国・地方公共団体の負担が増えることや医療保険制度そのものの運営が厳しくなることが考えられる。 |

○　グループに分かれて、考えたことを発表しよう。

発表を通じて感じたことや分かったことについて、メモしよう。

|  |
| --- |
| （回答例）  ・不健康な生活を送ったことで医療にかかる頻度が多くなった人と、健康な生活を送ったことで医療にかかる頻度が低い人が、保険料などで同程度の負担を求められる制度だと、健康な生活を送るインセンティブが起きづらいのではないかとの意見があった。  ・他方、健康は自身ではどうしようもない要因があり、そうした場合に本人が保険料を多く負担することは不公平ではないかという意見があった。今の日本の制度のように、健康か健康でないかによって、保険制度から排除されず、それにより保険料額が増えることがない制度は公平であると思った。  ・インセンティブがあることで皆がより健康になろうと頑張ると考えられるため、個人に着目した形以外でインセンティブを活用した制度を作ることができないかとの意見もあった。 |

【この２時間の授業の振り返り】この２時間の授業で学んだことを書いてみよう。

|  |
| --- |
|  |